

経営比較分析表／団体全体（令和6年度決算）

新潟県 小千谷市

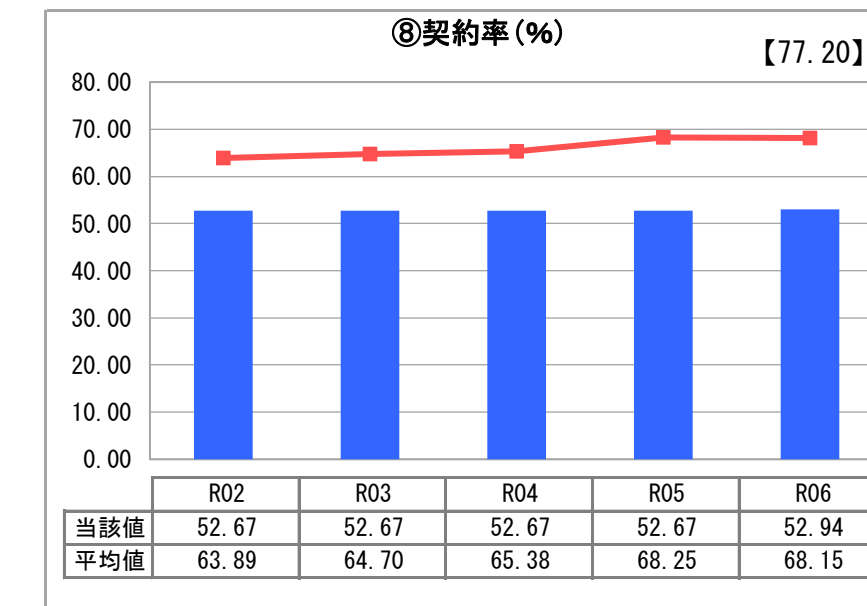
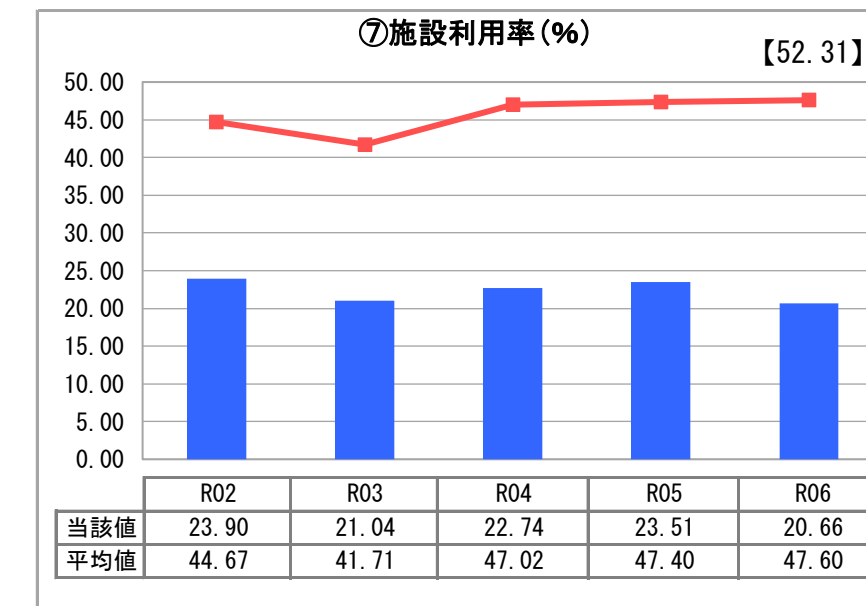
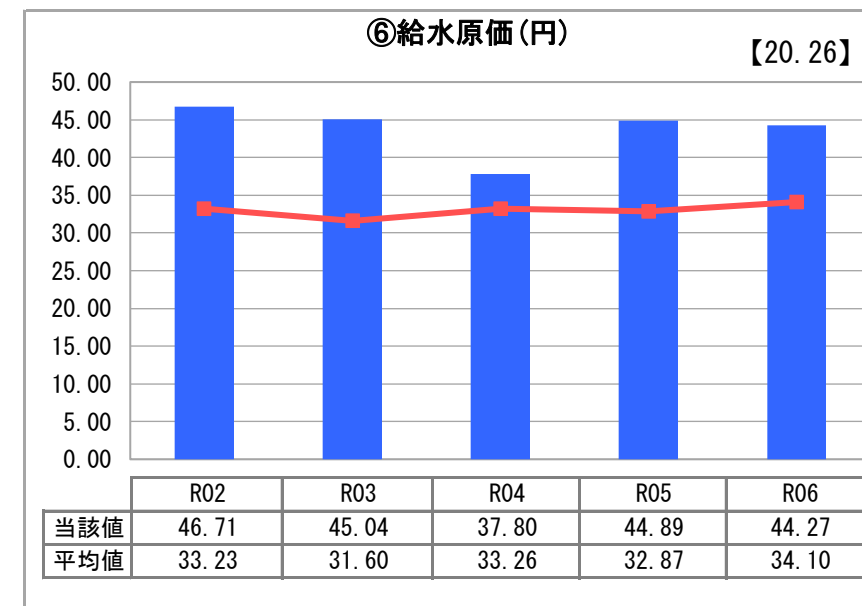
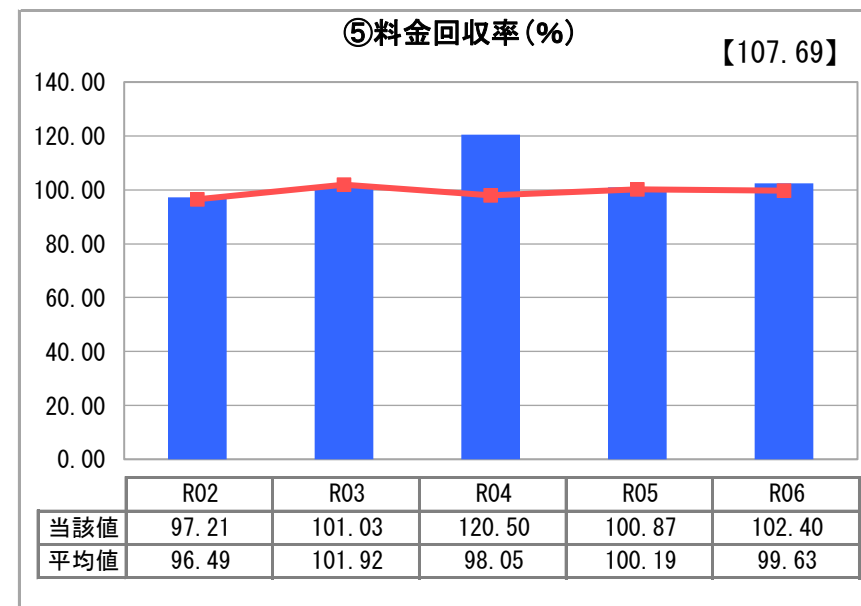
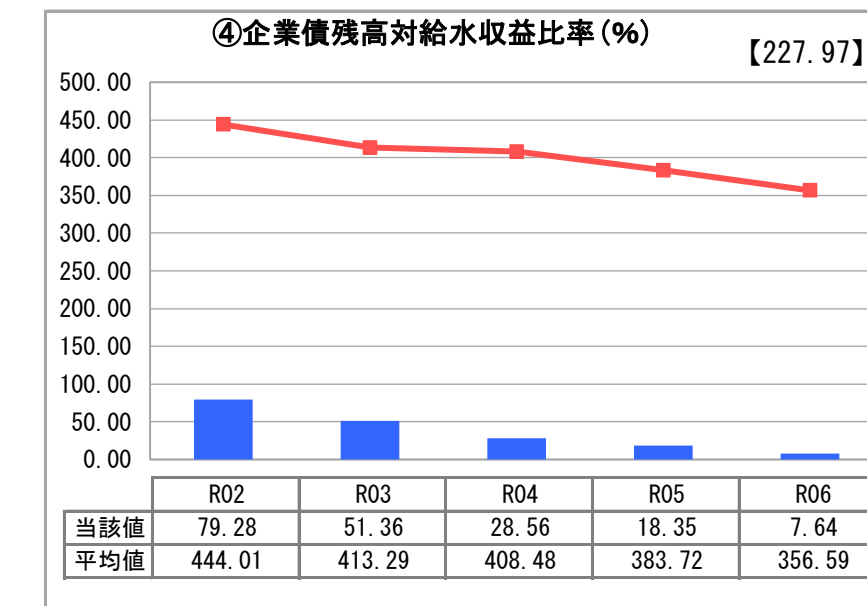
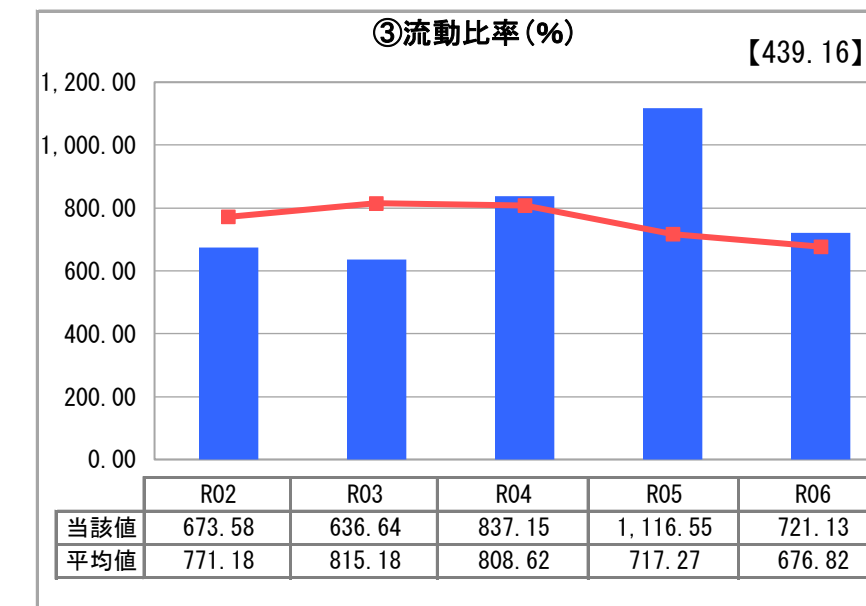
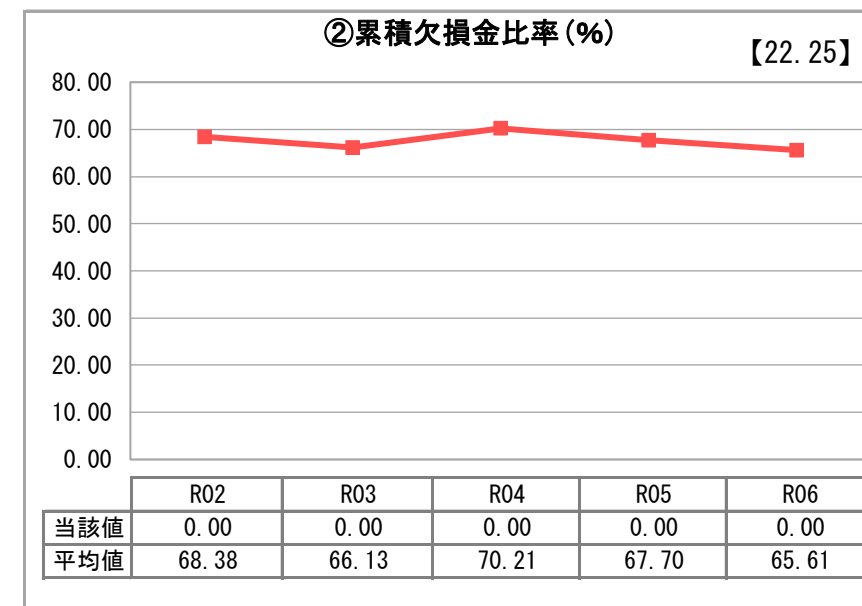
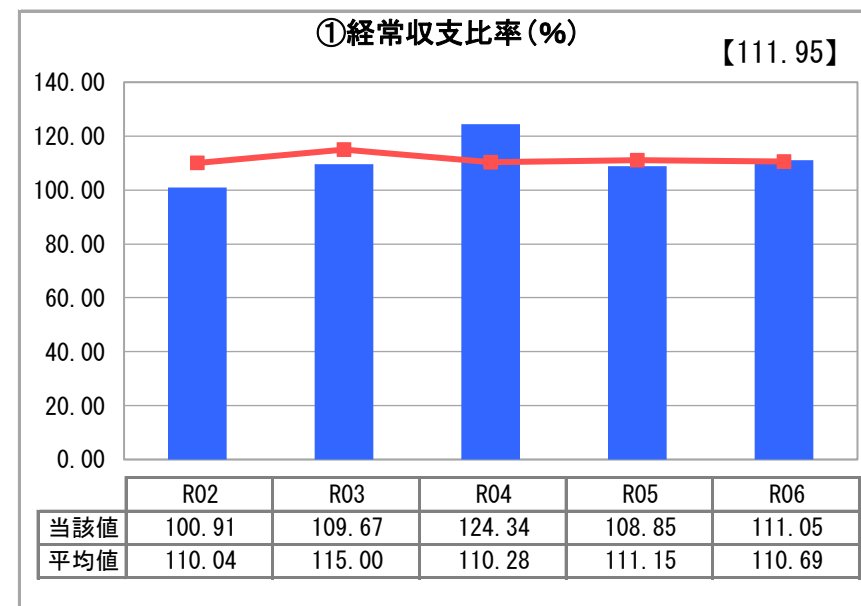
【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	18,700	小規模	1	3,863
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	93.7	4	9,900	非設置	

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

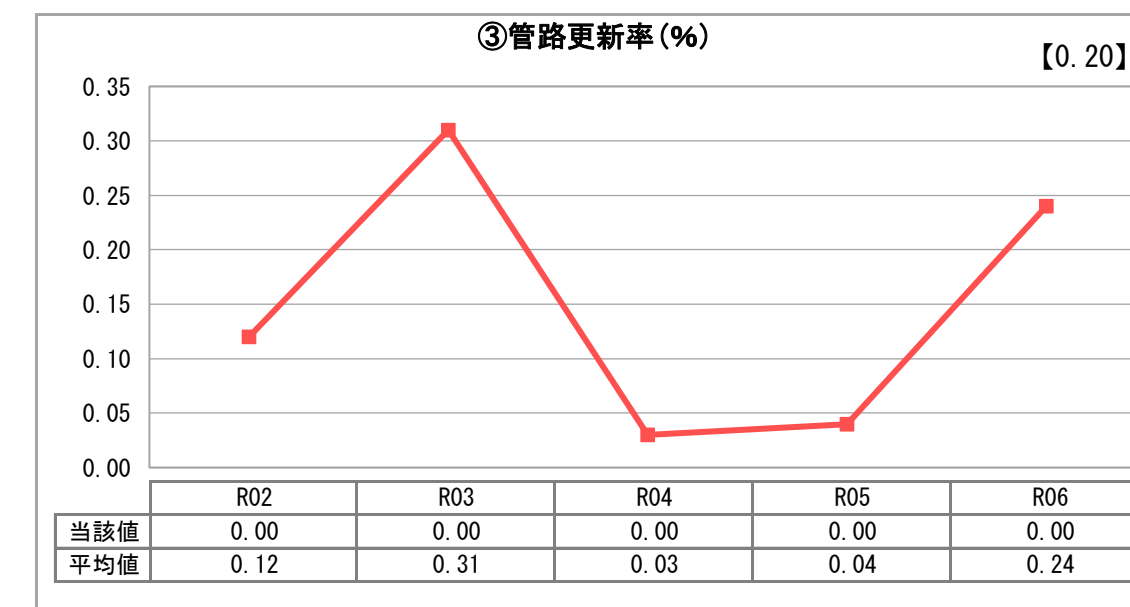
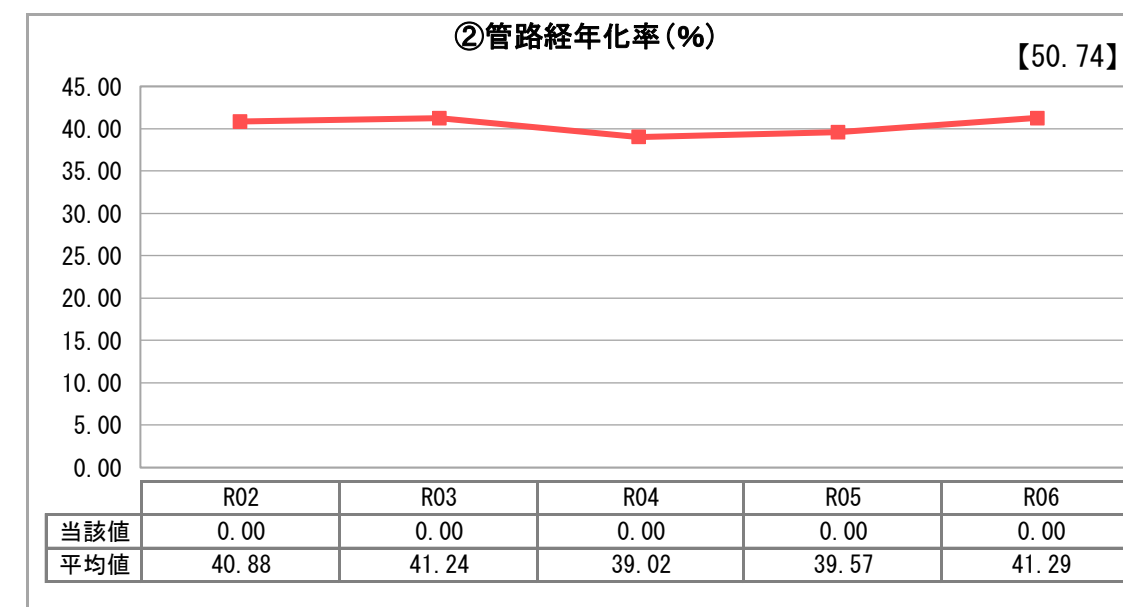
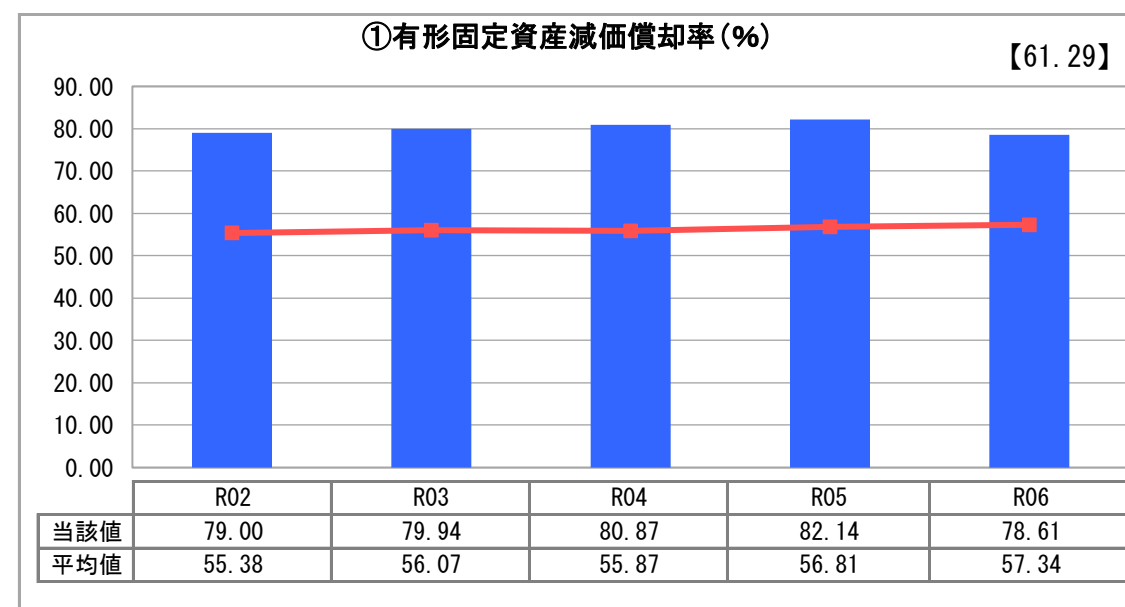
1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、修繕費の減少等により経常費用が減少したことから上昇し、類似団体平均値を僅かに上回った。
 ② H30年度は赤字だったものの、それ以降は黒字経営を続けており、累積欠損金はない。
 ③ 流動比率は、企業債の償還が進み流動負債は減少しているが、流動資産が大きく減少したため減少した。
 ④ 企業債残高対給水収益比率は、H10年度以降企業債の新規借入がなく、企業債残高の減少に伴い低下している。
 ⑤ 料金回収率は、修繕費の減少等により費用合計が減少したことから上昇した。
 ⑥ 給水原価は、経常費用の減少により僅かに減少した。
 ⑦ 施設利用率は、水道事業との共同利用開始でR1年度に上昇した後、使用水量の減少で低下傾向にあり、R4～R5年度は若干持ち直したものの、再び低下した。
 ⑧ 契約率は、僅かに上昇したが、依然として全国や類似団体の平均値より低い水準となっている。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、S59年度の給水開始から30年以上が経過しており、全国や類似団体の平均値と比較しても高い水準で推移している。
 ② 管路経年化率は、法定耐用年数を経過した管路がまだ存在しないことから0%となっている。
 ③ 管路更新率は、②で述べた理由により管路の更新に着手していないことから0%となっている。

2. 老朽化の状況



全体総括

R元年度より水道事業と施設の共同利用を開始し、経営の効率化を図ったが、水需要は依然低水準のままであり、施設利用率や契約率も低水準のままである。
 給水開始から30年以上が経過し、施設や設備の更新時期を迎えているが、物価高騰の影響を受けて更新費用は大幅に増加し、計画の見直しを迫られている状況である。
 今後は施設規模の見直しなどを検討し、安定的な事業運営の継続に努めて行くことが必要である。